

本当にひつようなもの？

平尾小・3 山本 稜大

ぼくはストローをよく使います。やき肉屋さんで注文したジュースを飲むときも、屋台でかき氷を買ったときにも使いました。ストローはべんりで、ぼくにはひつようなものです。だから「さようならプラスチックストロー」なんて、こまると思いました。

三年生になってから、ぼくは大きなハンバーガーを持ち帰りました。てりやきバーガーを食べながら、コーラを飲んだときに口になんかが入ってきました。はき出してみたら、白い紙のくずがありました。びっくりしてストローを見ると、口をつけるところがふにやふになっっていました。

「このストロー、なんかいやだ。」

そう言うと、お父さんに、

「紙ストローね。なればふつうだよ。ストローの先をかむもんでいかんだわ。」

と言われました。ストローに紙やプラスチックのしゅるいがあるなんてはじめて知りました。紙のストローよりもプラスチックのストローの方がぼくは好きです。

ストローだけでなく、レジぶくろやペットボトルもプラスチックでできています。プラスチックは、じょうぶで長持ちするけれど、「生分かいせい」がなくて、土の中で自ぜんにくさったり、水にとけたりしないそうです。だから、ポイすてされたプラスチックは、

いつまでものこってしまいます。とても軽いプラスチックは、風や海流にのって海でくらす生きものたちの生活をおびやかしているそうです。ウミガメのはなのあなにプラスチックストローがつまったり、胃(い)の中にプラスチックがつまって死んでしまったアホウドリがいたりしたことがきっかけで、プラスチックせい品のごみ問題が取り上げられるようになりました。プラスチックは、小さくてもとてもじょうぶだから、おなかの中では消化できません。ぼくがプラスチックを飲みこんだらどうなるか考えると、とてもこわくなりました。自分たちがべんりな生活をするために、海の生きものたちにこわい思いをさせてしまっているということを知りました。

ぼくのお父さんは、

「プラスチックがいけないんじゃないで、ポイすてするやつがおるもんでいかんだわ。」

と言っていました。ぼくもまったく同じ考えです。プラスチックじやなくてポイすてはよくないです。「さようならプラスチック・ストロー」をかけたディー・ロミートさんは「ほとんどの人にとって、プラスチックストローは、使わなくてもとくにこまらないもの」と言っています。そう言われてみると、ぼくはコップでジュースを飲むことができるから、ストローがなくてもこまりません。ストローは、ぼくにはひつようなものと思っていたけれど、そんなことはなかったと気づきました。

ポイすてはぜつたいにせず、「ストローはいらないです。」と言えるゆう気をぼくもみんなもって海の生きものを守りたいです。